

オーストラリア高配当株プレミアム (毎月分配型)

追加型投信／海外／株式

第28期末 (2015年1月19日)	
基準価額	8,541円
純資産総額	41,467百万円
第23期～第28期	
騰落率	△4.5%
分配金合計	900円

*騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- ◆運用報告書については、2014年12月以降に決算を迎えるファンドから「運用報告書(全体版)」とその中の重要な事項を抜粋した「交付運用報告書」の二種類を作成いたします。
- ◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。
- ◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法により交付することを定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

下記ホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「ファンド検索」を選択⇒「ファンド名の一部から探す」にファンド名を入力⇒該当のファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

ホームページアドレス <http://www.daiwasbi.co.jp/>
お問い合わせ先

デスクロージャー部 ☎0120-286104

受付時間は、毎営業日の午前9時から午後5時までです。

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

第23期 2014年8月18日決算 第24期 2014年9月17日決算
第25期 2014年10月17日決算 第26期 2014年11月17日決算
第27期 2014年12月17日決算 第28期 2015年1月19日決算
作成対象期間 (2014年7月18日～2015年1月19日)

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「オーストラリア高配当株プレミアム(毎月分配型)」は、このたび、第23期から第28期の決算を行いました。

当ファンドは、主として投資信託証券への投資を通じて、オーストラリア株式を実質的な投資対象とするとともに、通貨オプション戦略を行うことで信託財産の成長とオプションプレミアムの確保を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

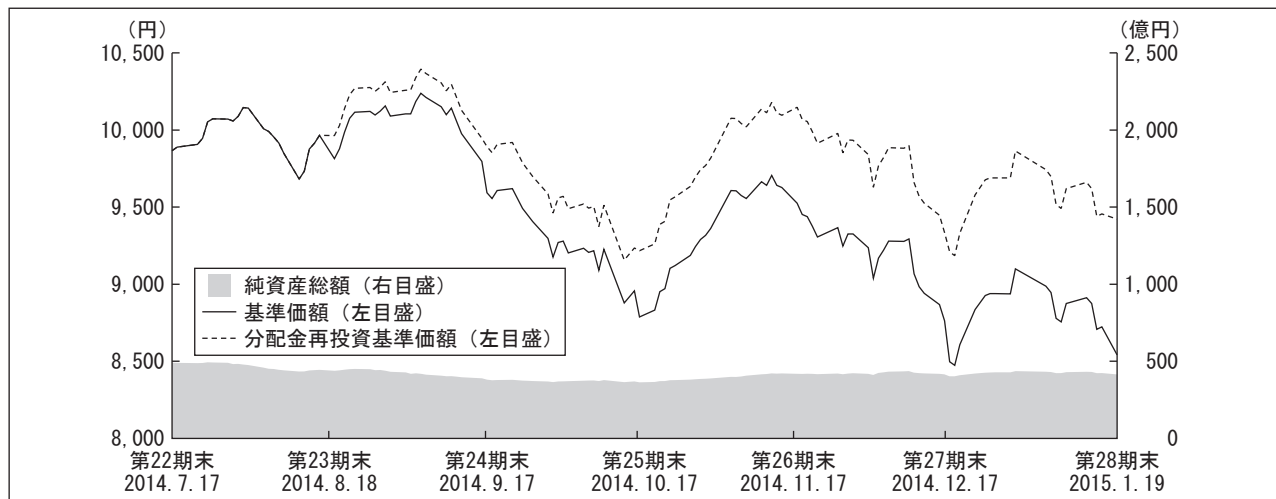


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第23期首： 9,865円

第28期末： 8,541円（作成対象期間における期中分配金合計額 900円）

騰落率： $\Delta 4.5\%$ （分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

主要投資対象であるAustralia Equity Income Fund Premium Classにおいて、テルストラ・コーポレーションやアムコーなどがプラスに寄与したことが、当ファンドの基準価額の上昇要因となりました。一方、BHPビリトン、パンオースト、NRWホールディングスなどがマイナスに作用したことが、当ファンドの基準価額の下落要因となりました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第23期～第28期		項目の概要
	2014年7月18日～2015年1月19日		
	金額	比率	
信託報酬	85円	0.889%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は9,533円です。
（投信会社）	(44)	(0.462)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(39)	(0.413)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(1)	(0.014)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.003	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	85	0.891	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

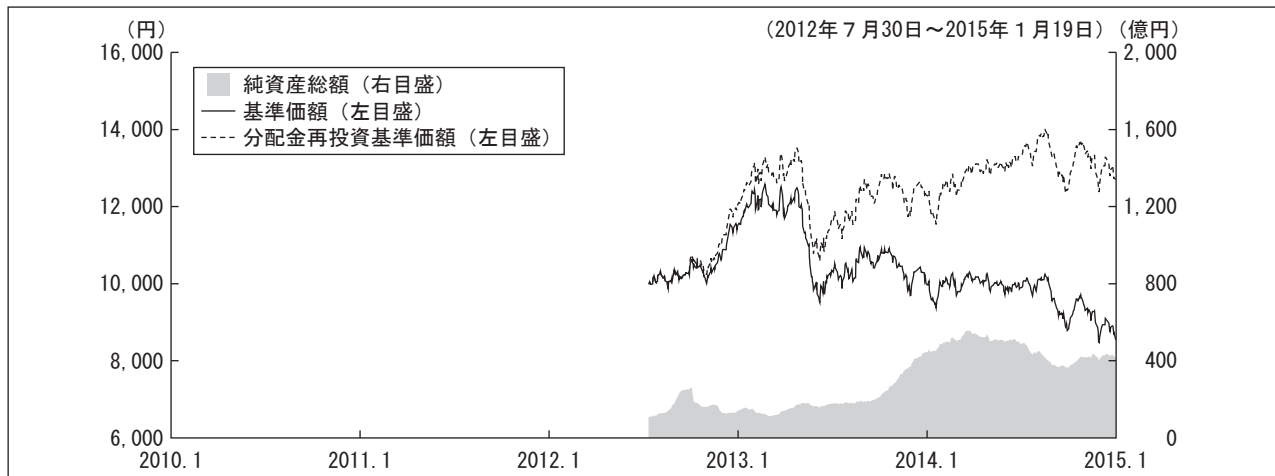
* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日（2012年7月30日）より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様ご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2012年7月30日 設定日	2013年1月17日 決算日	2014年1月17日 決算日	2015年1月19日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,396	9,995	8,541
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	480	1,770	1,800
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	19.2	3.2	3.2
純資産総額 (百万円)	10,742	13,745	44,360	41,467

【投資環境】

当作成期、オーストラリア株式市場は下落しました。豪ドルは対円で上昇したものの、対米ドルでは大きく下落しました。業種別では、ヘルスケア、通信、公益がリターン上位、エネルギー、素材、生活必需品が下位となりました。

米国景気は、消費、民間企業に支えられ引き続き回復し、利上げ期待が高まり、米ドル高が進みました。オーストラリアのヘルスケアは、米国の成長部門と米ドル高の恩恵で著しくアウトパフォームしました。オーストラリアの内需では、さえない景気見通しと雇用市場により、消費が引き続き軟調でした。2014年12月のウエストパック消費者信頼感指数は2011年8月以来の低水準となる91.1を記録しました。生活必需品はアンダーパフォームしました。

原油、鉄鉱石価格は、供給過剰と減産対応がなかったことで、大幅に下落しました。その結果、エネルギー、素材は著しくアンダーパフォームしました。

作成期中の豪ドル為替相場は、対円で上昇しました。10月末の日銀による追加緩和、安倍政権による消費税増税の延期と衆議院の解散などを受けて、円は大きく下落しました。作成期末にかけては、積み上がった円売りポジションの調整が進む中、豪ドルも商品価格の下落を背景に軟調に推移したことで、対円での上昇幅を縮小しました。

国内短期金融市場では、欧州中央銀行（ECB）の利下げ観測などを受けた欧州における金利低下や日銀のマイナス金利での短期国債買入れを受けて、国内短期金利は低下傾向が続きました。10月には日銀の短期国債買入れオペでの札割れや短期国債入札での初のマイナス金利応札など、需給ひっ迫を背景に短期金利の低下ペースが加速した後、日銀のサブライズ追加緩和を受けて、短期金利は大きく下振れる展開となりました。年末にかけて短期金利の低下傾向は一服したものの、2015年の年明け以降は、欧州での量的緩和観測などを材料に再び低下傾向が強まりました。作成期首0.017%で始まった国庫短期証券3ヵ月物利回りは、11月下旬に過去最低水準となる-0.08%台まで低下した後、-0.017%で作成期末を迎えました。

【ポートフォリオ】

■オーストラリア高配当株プレミアム（毎月分配型）

主要投資対象であるAustralia Equity Income Fund Premium Classを作成期を通じて高位に組み入れ、作成期末の投資信託証券組入比率は97.8%としました。

■Australia Equity Income Fund Premium Class

当作成期は、金融、通信をポートフォリオの中心としました。

構造的な成長要因があり、かつ有配のソニック・ヘルスケア、ストックランドを買い付けました。前者については、米国の雇用増加、ドイツでのシェア拡大とともに病理検査の成長を見込んでいます。後者は、住宅開発の成長から引き続き恩恵を受けることと見えています。過去数年、建築が過小であったこと、国内勢、海外勢からの持続的な需要があることなどが理由です。公益のDUE Tグループ、APAグループ、スパーク・インフラストラクチャー・グループも買い付けました。国有資産の買収が見込め、恩恵を受ける可能性があると見えています。

通貨オプションについては、豪ドル買い、円売りの権利（オプション）の売り建て想定元本が、保有豪ドル建て資産の時価総額に対して50%±30%に収まるようにコントロールしました。また、コールオプションの売り建てを時間分散し、効率的なオプションプレミアムの獲得に努めました。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債中心による運用を継続しました。また、高格付けの事業債等の組み入れを行い、ファンドの利回り上昇を図りました。年限に関しては、1年以内の短期金利では期間による利回り格差が小さいことから、6ヵ月以内の国債を中心とした運用を継続しました。作成期末の平均残存期間は3ヵ月程度となっています。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

収益分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第23期～第28期の各期において150円とさせていただきます。（1万口当り税込み）

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
	2014年7月18日 ～2014年8月18日	2014年8月19日 ～2014年9月17日	2014年9月18日 ～2014年10月17日	2014年10月18日 ～2014年11月17日	2014年11月18日 ～2014年12月17日	2014年12月18日 ～2015年1月19日
当期分配金 （円）	150	150	150	150	150	150
（対基準価額比率） （％）	1.51	1.54	1.68	1.55	1.73	1.73
当期の収益 （円）	120	120	121	128	121	124
当期の収益以外 （円）	29	30	28	21	29	25
翌期繰越分配対象額 （円）	1,597	1,569	1,543	1,525	1,498	1,473

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■オーストラリア高配当株プレミアム（毎月分配型）

引き続き、運用の基本方針に従い、オーストラリア株式を実質的な投資対象とし、配当利回りに着目した銘柄選定により信託財産の中長期的な成長を目指すとともに、株式への投資に加え、通貨オプション戦略を行うことで、オプションプレミアムの確保を目指します。

■Australia Equity Income Fund Premium Class

2015年上半期については、ギリシャのユーロ離脱の可能性や不透明な米国の利上げ時期、中国の成長率のさらなる鈍化などのリスクにより、ボラティリティが高まる展開を予想します。

内需では、消費者信頼感底打ちが見込まれ、オーストラリア準備銀行（RBA）には利下げ余地があると見られます。オーストラリアの利下げと米国の利上げにより、対米ドルでのさらなる豪ドル安の可能性が考えられ、これによる恩恵を受ける銘柄を愛好します。

構造的な成長要因を持ち、妥当なバリュエーションである有配銘柄や先行きポジティブなカタリストを見込めそうな割安銘柄を愛好します。マクロ環境が不透明な中で、ディフェンシブなポートフォリオとする方針です。

通貨オプションについては、引き続き、豪ドル買い、円売りの権利（オプション）の売り建て想定元本が、豪ドル建て資産の時価総額に対して50%±30%に収まるようにコントロールします。また、コールオプションの売り建てを時間分散し、効率的なオプションプレミアムの獲得を目指します。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債を中心とした運用を行っていきます。また、残存1年未満の高格付け事業債等の組入比率は現状程度を維持します。日銀による金融緩和政策が続くため、短期金利の上昇リスクは限定的と予想します。ファンドの平均残存年限については2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

お知らせ

平成26年12月1日付の改正投資信託法施行に伴い、投資信託約款において以下の対応を行いました。（2014年12月1日付）

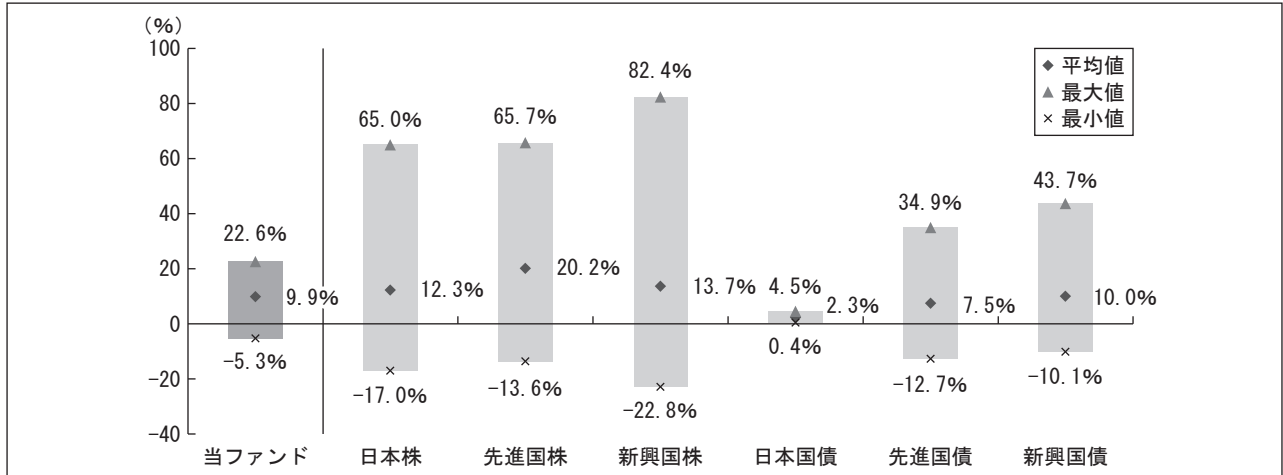
- ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供し得るための所要の変更を行いました。
- ・書面決議手続きの緩和に関する所要の変更を行いました。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2012年7月30日～2017年7月18日（約5年）	
運用方針	主にオーストラリアの株式に投資することで、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指す「Australia Equity Income Fund Premium Class」受益証券を主要投資対象とします。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・Australia Equity Income Fund Premium Class受益証券 ・キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	Australia Equity Income Fund Premium Class	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの株式 ・通貨オプション取引等
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<p>ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Australia Equity Income Fund Premium Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。 ・株式への投資に加え、通貨オプション戦略を行うことで、オプションプレミアムの確保を目指します。 	
分配方針	<p>毎月17日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2013年7月～2014年12月
 代表的な資産クラス：2010年1月～2014年12月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	Citigroup Index LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

《当該投資信託の組入資産の内容》

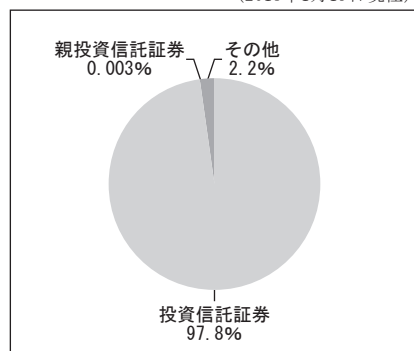
【組入ファンド】

	第28期末（2015年1月19日）
	組入比率
Australia Equity Income Fund Premium Class	97.8%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

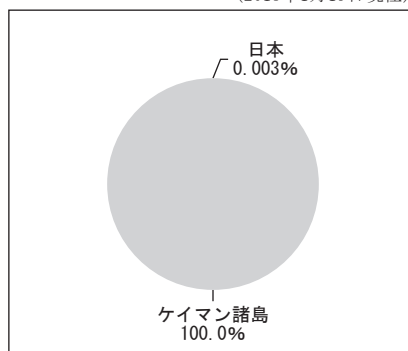
(2015年1月19日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

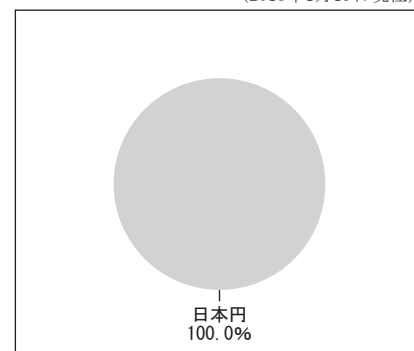
(2015年1月19日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2015年1月19日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

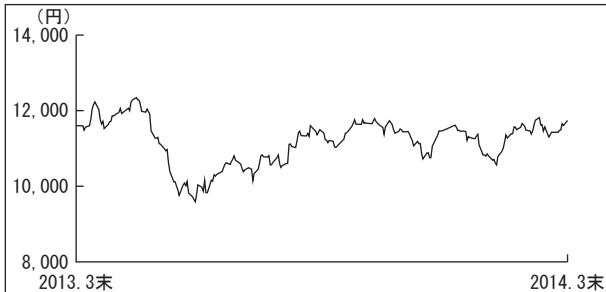
項目	第23期末	第24期末	第25期末	第26期末	第27期末	第28期末
	2014年8月18日	2014年9月17日	2014年10月17日	2014年11月17日	2014年12月17日	2015年1月19日
純資産総額	43,825,654,616円	38,058,782,471円	36,326,988,208円	41,862,574,948円	40,261,168,581円	41,467,283,817円
受益権総口数	44,655,385,299口	39,674,923,967口	41,334,892,681口	43,948,535,419口	47,388,249,641口	48,551,232,699口
1万口当り基準価額	9,814円	9,593円	8,788円	9,525円	8,496円	8,541円

*当作成期間中における追加設定元本額は20,577,479,779円、同解約元本額は21,745,634,762円です。

《組入ファンドの概要》

■ Australia Equity Income Fund Premium Class

【基準価額の推移】



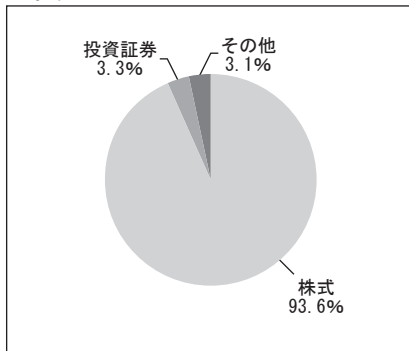
*上記グラフは、基準価額に分配金を分配時に再投資したものと表示しております。

Australia Equity Income Fund

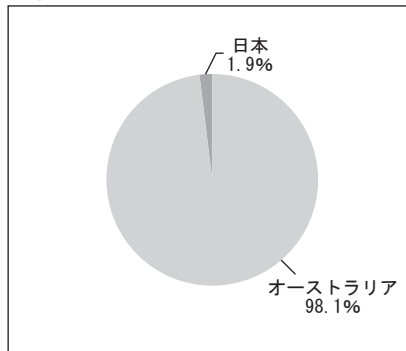
【1万口当りの費用明細】

費用については、開示されていないため、掲載しておりません。

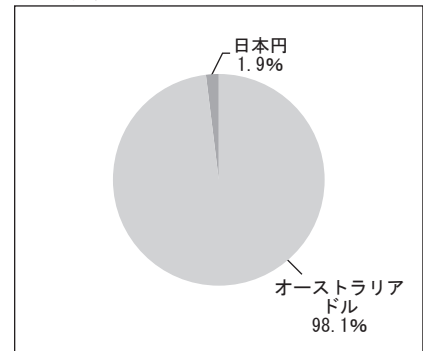
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



【組入上位銘柄】

銘柄名	業種名	比率
1 WESTPAC BANKING CORP	金融	9.4%
2 COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	金融	8.9%
3 INSURANCE AUSTRALIA GROUP	金融	8.4%
4 BHP BILLITON LTD	素材	8.4%
5 NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	金融	7.7%
6 TELSTRA CORP LTD	電気通信サービス	7.3%
7 AUST AND NZ BANKING GROUP	金融	5.4%
8 MACQUARIE GROUP LTD	金融	4.1%
9 WESFARMERS LTD	生活必需品	3.5%
10 SUNCORP GROUP LTD	金融	3.3%

(組入銘柄数 56銘柄)

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は2014年3月末現在のAustralia Equity Income Fundの純資産総額に対する比率です。

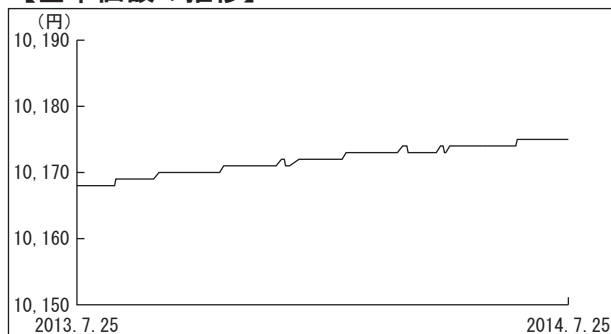
※ 資産別配分におけるその他には、キャッシュ等を含みます。

※ 当ファンドの運用報告書作成時点において、入手可能な直前計算期間のAustralia Equity Income Fundの情報を記載しております。

※ 詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

※ 上記はブラウン・ブラザーズ・ハリマンから入手したデータに基づき作成しております。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 【基準価額の推移】



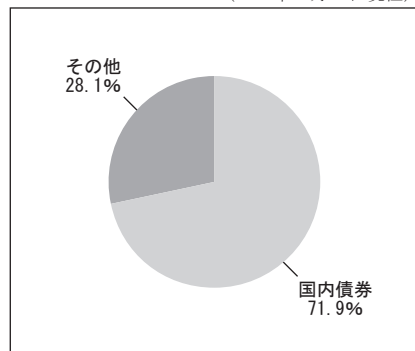
【1万口当りの費用明細】

(2013年7月26日～2014年7月25日)

当期中に発生した費用はありません。

【資産別配分】

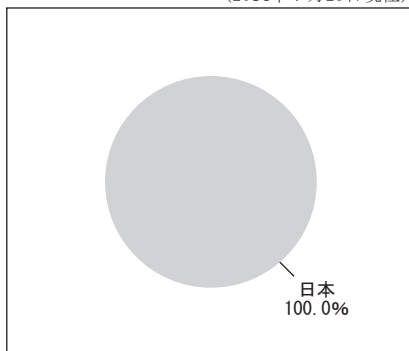
(2014年7月25日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

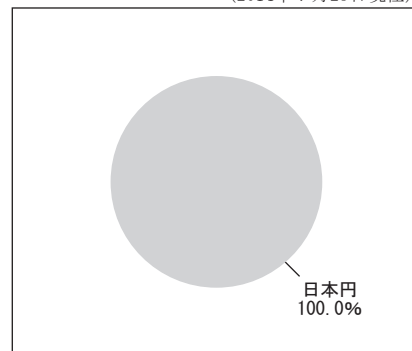
(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】 (2014年7月25日現在)

銘柄名	比率
1 455 国庫短期証券	17.6%
2 404 国庫短期証券	17.6%
3 465 国庫短期証券	13.4%
4 323 2年国債	12.5%
5 319 2年国債	8.9%
6 13 リコーリース	1.8%

(組入銘柄数 6銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 全銘柄に関する詳細な情報および直近の計算期間の運用経過等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。